

## 三重県中国ビジネスサポートデスク現地レポート

平成28年2月23日

上海デスク（上海納克名南企業管理諮詢有限公司）

### 電子マネーde お年玉

中国では日本以上にスマートフォンのアプリを利用した金銭決済サービスが急速に広まっており、新たなビジネスの可能性を生み出しています。

### 微信紅包(ウェイシン ホンパオ)

日本でも民間団体による「今年の流行語大賞」が発表されますが、中国でも「国家語源資源観測研究センター」という機関が「2015年度中国メディア流行語」を発表しました。その中の社会生活に関する流行語に「微信紅包(中国語の発音はwei xin hong bao)」という言葉があります。

日本のメディアでは、中国の大型連休に中国人がこぞって来日し、爆買いすることから、中国の大型連休時期を周知する日本人が増えましたが、日本のお正月に相当する春節(旧正月)には日本同様にお年玉を配る習慣があります。このお年玉のことを赤いポチ袋に入れて渡すことから「紅包」と呼びます。

一方、「微信」とはWe Chat(ウィーチャット)とも呼ばれる、日本のLINE(ライン)に相当する中国のSNSアプリであり、やはり若者を中心に多くの中国人が利用しています。近年は通常のメッセージ往来のほか、電子マネーのオンライン決済サービスも提供しており、手軽で便利なことからこちらも多くの人々が利用し始めています。流行語になった「微信紅包」とは、微信の電子マネー決済サービスを利用して個人から個人にお年玉を送る行為を言います。

### アプリ利用の電子マネーサービスは日本より先行している

中国での電子マネー決済サービスは微信のほか、大手IT企業のアリババが運営する「支付宝(アリペイ)」等も存在し、ネットショッピングでの企業対個人間の決済のほか、個人対個人間の決済サービスも急速に普及しており、その結果、上述の微信紅包の様な事実上の個人間送金サービスを可能にしています。

実は弊社でも、他拠点からの出張社員に対する費用精算の際に社員間で微信を利用して精算したり(筆者は社内コンプライアンスの面からあまり推奨していませんが)、ネットで注文した事務用品等の代引き代金立替決済(現金を支払う代わりにスマートフォンをかざすと宅配業者との間で代金決済が可能)したりと、便利であることは認めざるを得ません。日本では諸規制の問題があるのかも知れませんが、日本の「おサイフケータイ」等と比べてもユーザーの利便性は高く、中国ではこれを利用した新たなビジネスチャンスも広がっています。

ちなみに、前述した「微信紅包」では微信グループ内のメンバー間で金額をアトランダムに配布する設定が可能であり、この機能を利用して距離を問わず仲間同士でゲーム感覚で遊ぶ(くじ引きみたいな感覚)ことも出来るため、コミュニケーションツールとしても利用されているようです。